

荒尾第三中学校 二年 世間 柚葉

うるさいなあ。トがせ、かく念持ち良くなる。寝てるのに。

私は、サイレンの音で目を覚ましよした。

で、竹が燃えていふような音がしました。何

ださうと思つて、窓を開けました。空がま

て、火花がちよこちよこ見えました。お父

さんが、

「あ。火事だ。たぶん、すぐ近くで起

こ

「ぶうん」

その時は、特に気にしていませんでした。消

防団のト達が一生涯懸命火を消していたこと

も、

「すごいなあ。でも、まあ仕事だから当たり

「前だよぬ」

まだ幼かった私は、こんな日と考えも持

ていませんでした。

次の日、お父さんと一緒に昨日の事があ

た家に行きました。その家は、真っ黒になっ
ていました。跡には、家の骨組みだけが残っ
ていました。
「こんなひどい火事だ」
初めて、火事のおそろしさを知りました。昨
日、うるさい「と思っ、たことを、
申し分なく感じました。その家の人達が助かっ
たのかどうかは分かりません。あの火事で、
命も落と、してしま、たかも知れませ、ん。燃え
ま、った家も見て、ようやく気づくことが
できました。消防団の人達が一生懸命なもの
です。助けたい、守りたい、と、いう、た
だ、水だけだったのです。ただ、それだけの
ために、自分の命も死と隣合わせにして、た
くさん命を守ろうと、していたのだ、でした。
自分の命よりも、他の人の命も大切にさ、き
ぶ？友達や家族よりも、ま、ったく顔も名前も
知らない人を助け、る、ことが、できる？自分自身
に、聞いてみる、と、さ、き、ない、と、い、う、答、え、が
返、っ、て、き、ま、し、た。そ、し、て、や、っ、ぱ、り、消、防、団、の

人はすごいなあと、改めて感じました。私には
はともまねできません。この出来事を通して、私達は知らず知らず
の間に消防団の人達に守られていたんだとい
うことを感じました。同時に、命の大切さも
学ぶことが出来ました。あの時、学んだこと
も、水がらも少しづつ生活に生かされていけ
たらいいなと思います。